

放射性物質の局在性に関する調査 放射性セシウム測定結果

平成 24 年 1 月 30 日

調査機関：福島県水産試験場

分析協力機関：国立大学法人福井大学

現在、水産物の放射線量モニタリング検査は主に筋肉を用いて行われています。しかし、肝臓や卵巣など筋肉以外の部位を食用とするものも多くあるため、代表的な魚種について筋肉以外の部位について放射性セシウム（Cs134、Cs137）を測定しましたので結果をお知らせします。

1 測定結果一覧

魚種名	採取年月日	筋肉中セシウム (Bq/kg)	部位別セシウム (Bq/kg)			部位/筋肉比 (%)			備考
			肝臓	卵巣	精巣	肝臓	卵巣	精巣	
イシガレイ	2011/10/17	194	32	83	－	16.5	42.8	－	※
	2011/10/25	1,180	143	310	－	12.1	26.3	－	※
	2011/10/29	124	21	34	－	16.9	27.4	－	※
	2011/11/14	870	－	148	－	－	17.0	－	※
マダラ	2011/8/1	194	31	－	－	16.0	－	－	※
	2011/8/22	187	32	－	－	17.1	－	－	※
	2011/11/27	300	42	－	146	14.0	－	48.7	※
エゾイソアイナメ (ドンコ)	2011/7/25	1,540	148	－	－	9.6	－	－	※
	2011/8/1	150	33	－	－	22.0	－	－	※
	2011/8/22	710	182	－	－	25.6	－	－	※
	2011/8/22	153	28	－	－	18.3	－	－	※
	2011/10/3	40	11	－	－	27.5	－	－	※
	2011/11/12	14	7	－	－	50.0	－	－	
	2011/11/14	112	21	－	－	18.8	－	－	※

魚種名	採取年月日	筋肉中セシウム (Bq/kg)	部位別セシウム (Bq/kg)				部位/筋肉比 (%)				備考
			肝臓	卵巣	皮膚	鰓	肝臓	卵巣	皮膚	鰓	
キアンコウ (アンコウ)	2011/7/5	52	26	28	24	23	50.0	53.8	46.2	44.2	※
	2011/8/22	400	91	－	－	－	22.8	－	－	－	※
	2011/8/22	95	18	－	－	－	18.9	－	－	－	※
	2011/9/5	49	17	－	－	－	34.7	－	－	－	※
	2011/9/15	110	24	－	－	－	21.8	－	－	－	※
	2011/10/6	136	19	－	10.8	－	14.0	－	7.9	－	※

【備考】

- ・セシウムは Cs134 と Cs137 の合計。
- ・表の備考欄※の筋肉中の放射性セシウムは福島県農業総合センターで測定した。
- ・同一個体から採取した部位は横並びで示した。
- ・測定に必要な量が採取できなかった等の理由により測定を行わなかった部位は「－」で示した。

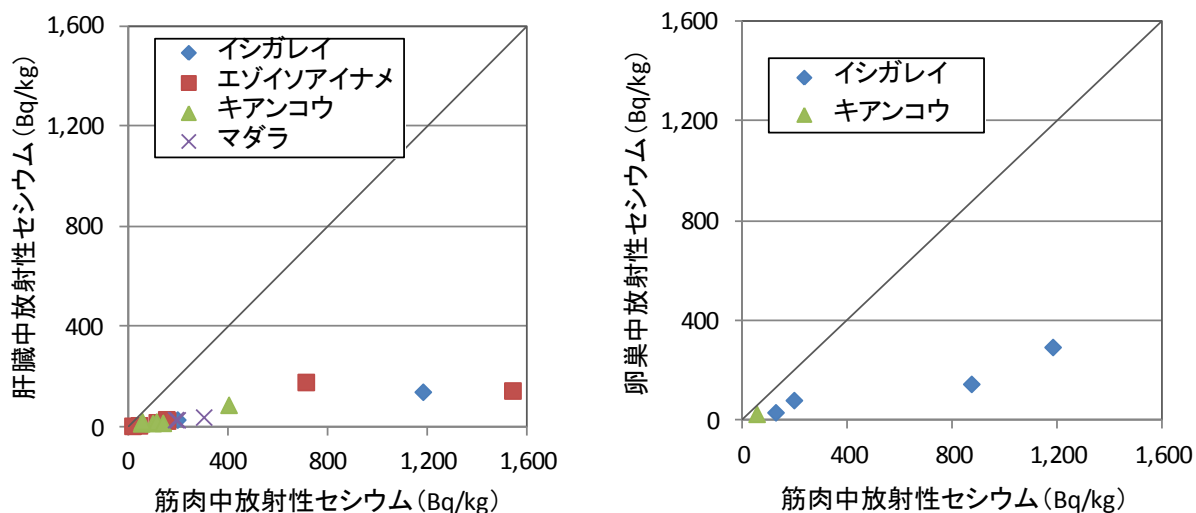


図 1 肝臓および卵巣中の放射性セシウムと筋肉中の放射性セシウムの関係

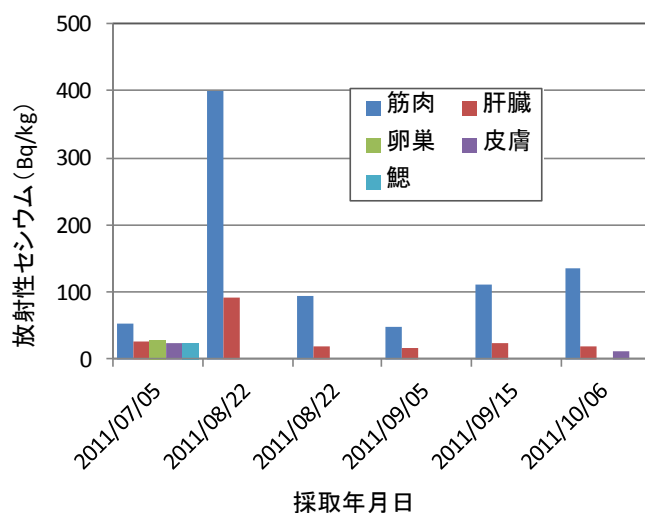


図 2 キアンコウの部位別放射性セシウム

2 結果の概要

- (1) 肝臓の放射性セシウムはイシガレイ、マダラ、エゾイソアイナメ（ドンコ）、キアンコウで筋肉より低く、筋肉の 9.6～50.0%でした。
- (2) 卵巣の放射性セシウムはイシガレイ、キアンコウで筋肉より低く、筋肉の 17.0～53.8%でした。
- (3) キアンコウは様々な部位が食用となるため、採取できた個体について皮膚と鰓についても測定を行いました。その結果、放射性セシウムは各部位とも筋肉より低くなりました。(図 2)
- (4) 今回測定したサンプルについては、平成 23 年 3 月 29 日に水産庁が開催した「水産生物における放射性物質についての勉強会」の資料にある原発事故以前の傾向と同様に、筋肉中の放射性セシウムの濃度の方が高いという結果になりました。